

4. 競技別実施要項及び注意事項・本大会申し合わせ事項

1. 第 51 回軟式野球競技実施要項
2. 第 39 回卓球競技実施要項
3. 第 37 回バレーボール競技実施要項
4. 第 36 回陸上競技実施要項
5. 第 25 回サッカー競技実施要項
6. 第 24 回テニス競技実施要項
7. 第 19 回ゲートボール競技実施要項
8. 第 18 回ボウリング競技実施要項
9. 第 13 回ソフトボール競技実施要項
10. 第 13 回バドミントン競技実施要項
11. 第 6 回バスケットボール競技実施要項

1. 第51回軟式野球競技実施要項

1. 競技種目

軟式野球競技とする。

2. 競技規則

大会開催年度の公認野球規則および(財)全日本軟式野球連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項による。

3. 出場資格

- ① ブロック予選大会において、優勝・準優勝の各1チームに開催地元チーム1チームを加えた計19チーム以内とする。なお、開催地チームが予選大会において優勝又は準優勝の場合は、地元開催チームの権利を失うものとし、出場チーム数は18チーム以内になるものとする。
- ② 但し、優勝・準優勝チームが本大会に出場できない場合は、当該ブロックの協議により、代替チームが出場できるが、代替チームに関する責任は代替チームを選出した当該ブロックが全て負う。
- ③ 出場するチームは1チームで、当該ブロック内の他のチームから選手を2名以内で補強することができる。
- ④ 最低チーム数は16チームとする。但し、16チーム未満の場合は前年度予選大会での各ブロック内のチーム数の多い順から1チームずつ推薦する。この配分順は大会年度の前年度日本ろう者スポーツ協会全国委員会で抽選等により決定する。(13. その他の⑤)に注意)

4. チームの編成

- ① 1チームの編成は、監督を含む選手20名以内とする。
- ② コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。
- ③ 監督の背番号は30番、主将の背番号は10番とする。

5. 競技方法

- ① 全試合トーナメント方式による。
- ② 試合は7回戦とし、正式試合となる回数を4回とする。
- ③ 得点差および時間制限によるコールドゲームを採用する。
- ④ 得点差によるコールドゲームは、正式試合回数以降7点差が生じた場合とする。
- ⑤ 時間制限によるコールドゲームは、1試合の時間を1時間45分とし、1時間45分を過ぎて新しいイニングには入らないものとする。よって、1時間45分を正式試合の時間とし、試合は成立したものとする。また、ゲーム中断等によるロスタイム等の計測については、担当審判員の判断により実施するものとする。
- ⑥ 7回を終わって同点、もしくは時間制限によるコールドゲーム時に同点の場合は、次項の特別ルール(決勝戦も同様)による延長戦を1回実施する。

【特別ルール】 継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は、順次前の打者(投手を含む)として、1死満塁の状況により1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。

- ⑦ 特別ルールによる延長戦を実施しても勝敗が決しない場合は、抽選により勝敗を決定する。
- ⑧ 決勝戦の場合、下記事項にて実施する。
 - (1) 得点差および時間制限によるコールドゲームを採用しない。
 - (2) 9回戦とし、正式試合となる回数を5回とする。
 - (3) 9回を終わっても同点の場合は、11回まで延長戦を行う。
 - (4) 延長戦でも勝敗が決しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。(この場合、原則として

勝敗が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。

- ⑨ 競技会において、雨天等の事情により大会日程等を縮小する必要がある場合は、大会役員・審判団・該当チーム監督等の協議により運営実施するものとする。
- ⑩ 大会の使用球は、(財)全日本軟式野球連盟公認 A 号ボールとし、ボールのメーカーについては主管団体において決定する。(本大会はナガセケンコーボールとする。)

6. 用具等

競技に使用する用具については、(財)全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者は、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、ヘルメットおよびレガースを着用しなければならない。

7. 打順表(オーダー表)提出について

- ① 第1試合の場合は、試合開始予定時間の30分前に主将が提出する。この場合、原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。
- ② 第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。
- ③ その日の試合が、Wヘッダー(前の試合終了後30分前で試合開始)となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。
- ④ 打順表の用紙(5部複写)は、監督・主将等合同会議で配布するので、事前に受領する。
- ⑤ 打順表の選手については、必ずフリガナをつけること。

8. 抗議について

試合中に、抗議ができる者は、監督または主将・当該プレイヤーである。

9. 監督・主将会議

- ① 監督・主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。
- ② 組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。
- ③ 準決勝までは、そのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない。
- ④ 3の出場資格④によって推薦されたチームは、1回戦からそのチームの属するブロックのチームと対戦を行わない。

10. 表彰

- ① 表彰式は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。
- ② 個人表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。首位打者賞は、ベスト3チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席(12打席以上)を設けて最高打率によるものとする。

11. 開会式、始球式について

開会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部の指示に従うこと。

12. 雨天の場合の連絡等について

- ① 雨天でも試合を行う場合がある。また、午前中は試合を見合わせて、午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。
- ② 雨天でも試合を行う場合、落雷がないとも限らないので、木製バットも用意しておくこと。

13. その他

- ① 試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手 20 名とチーム代表者 1 名・スコアラー 1 名・マネージャー 1 名とする。
- ② 試合開始予定時刻の 40 分前までには会場に到着し、会場本部席に到着の報告を行うこと。なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻より早くゲームを行える場合も考えられるので、十分余裕を持って行動すること。
- ③ ベンチは、組合せ番号の若いチームを 1 塁側とする。
- ④ ゲーム前の公式練習(シートノック・フィールドイング)は 5 分間とする。但し、天候・時間の状況等により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用のこと。
- ⑤ 実行委員会は、大会参加申込締切直後の参加チームが 16 に満たない場合、すぐ日本ろう者スポーツ協会事務局にその旨を伝えること。

14. 本要項改正

- ・一部改正 2004 年 2 月 22 日 第 6 回全国委員会

2. 第 39 回卓球競技実施要項

1. 競技種目

団体戦:男子団体・女子団体

個人戦:男子シングルス (一般の部・シニアの部)
女子シングルス (一般の部・シニアの部)

ダブルス戦:男子ダブルス・女子ダブルス・混合ダブルス

2. 競技規則

大会開催年度の日本卓球ルール及び本大会申合せ事項による。

3. 出場資格

- ① 団体戦については、男女とも 1 加盟団体 1 チームとする。
- ② 個人戦に出場する場合、一般の部とシニアの部のいずれかに出場するものとする。
- ③ 個人戦(男女シングルス)のうち一般の部は年齢制限がないが、シニアの部は男子は40歳以上、女子は35歳以上とする。
- ④ 個人戦(男女シングルス)、ダブルス戦は参加制限をしない。但し、団体戦に登録した選手はダブルス戦に出場できない。
- ⑤ 加盟団体内でダブルスのペアが組めない場合、大会競技実施要項規定の6(2)により他の加盟団体の者と組むことができる。

4. チームの編成

男女とも、監督1名、選手 3～5 名、コーチ 1 名を登録することができる。

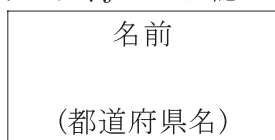
5. 競技方法

- ① 団体戦は参加数により、以下の方法で行う。
 - ・7 チーム以上はトーナメント方式。
 - ・6 チームの場合、AとBブロックに分けた予選リーグ戦とし、各ブロック1位チームが決勝戦、2位チームが3位決定戦を行う。
 - ・5 チーム以下の場合には総当りリーグ戦とする。
- ② リーグ戦の順位決定は勝者 2 点、敗者 1 点、棄権 0 点で得点計算をして決定する。(現行日本卓球ルールによる)
- ③ 勝敗の決定は、11 点 5 ゲームマッチ(3 ゲーム先取勝)とする。
- ④ 順位決定は勝者 2 点、敗者 1 点、棄権 0 点で得点計算をして決定する。
- ⑤ 団体戦は、男女とも世界選手権の団体戦方式とし、3名のシングルスによって試合を行い、男女とも3点先取とする。

A	B	C	A	B
X	Y	Z	Y	X
- ⑥ 個人戦及びダブルス戦についても、11 点 5 ゲームマッチとする。
- ⑦ 個人戦、ダブルス戦ともトーナメント方式で行う。但し、個人戦のシニアの部は参加状況により、競技方法を変更することがある。(決定は競技主管で行う)

6. 競技服装等

- ① ラケットの両面は、異色(赤・黒)でなければならない。
- ② ゼッケンは、JTТА 公認のゼッケンか、下図の様式の通り作成し、背部に着用すること。



縦 21cm 横 28cm

※日本卓球ルールにより、サイズは 600 cm²以内であること。

7. 使用球

ボールは JTТА 公認の 40 ミリボールを使用する。
(使用球のメーカー、色は主管協会が決めるものとする。)

8. 組み合わせ方法

- ① 団体戦の組み合わせは、監督・主将会議において、もしくは参加申し込み締め切り後、実行委員会と競技主管団体、技術委員、審判長の立会いのもとで、代理抽選により決定する。
- ② 個人戦とダブルス戦の組み合わせは、参加申し込み締め切り後、①と同様のもとで、代理抽選により決定する。
- ③ シードは下記の通りとする。シード並びは現行日本卓球ルールに従うこと。
男女団体戦…前回ベスト 4 まで
男女個人戦…前回ベスト 16 まで
男女混合ダブルス…前回ベスト 4 まで(但しパートナーの変更は不可)
個人戦…各種目ともひとつのエリアに同じブロック選手、または同じ加盟団体選手が集中しないよう、配慮すること。

9. 表彰

種目ごとに、競技終了後、表彰を行う。

10. 注意事項

- ① 団体戦及びシングルス及びダブルスの参加申し込みについては、備考欄に戦歴を記入のこと。
- ② 競技進行はタイム・テーブルによって行うので、各自の出場時間及びコートを予め確認しておくこと。
- ③ 団体戦のオーダーは、第1試合は〔 〕時(監督・主将会議にて決定)、第 2 試合以降は対戦チームが決定次第直ちに提出すること。
- ④ その他については、大会本部又は競技役員の指示に従うこと。

11. 本要項の改正

- ・一部改正 2004 年 2 月 22 日 第 6 回全国委員会
- ・一部改正 2005 年 2 月 27 日 第 7 回全国委員会

ジェスチャーの統一（主審）

主審は下図のようなジェスチャーで審判を行い試合を進めて下さい。

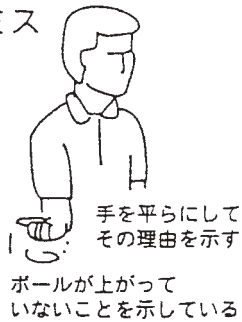
ポイント



タイム



サーブミス



レット



サイド



エッジボール
(セーフ)



ジャンケン



始まる



終わる



3. 第37回バレーボール競技実施要項

1. 競技種目

バレーボール6人制競技(男子及び女子の2種目)とする。

2. 競技規則

大会開催年度の(財)日本バレーボール協会6人制競技規則及び本大会申し合わせ事項による。ネットの高さは男子2m43cm、女子2m24cmとする。

3. 出場資格

男女とも、加盟団体単位で1チームとする。但し、加盟団体単位でチームを編成できない場合は当該ブロックに限り、連合チームを編成することができる。方法として単独チームを組むチームに加入、また単独チームを編成できない加盟団体同士がチームを組んでもよい。この場合、後者については、連合であることが明確なチーム名にすること。

4. チームの編成

- ① チームの編成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名の計15名以内とする。
- ② 監督、コーチ、又はマネージャーが選手を兼ねる場合は選手名簿にも登録されていなければ選手として出場できない。

5. 競技方法

- ① 競技は、トーナメント方式によるものとする。但し、参加チームが少ないときは、予選リーグを行った後、勝ち残ったチームによる決勝戦によるトーナメント戦を行う。
- ② 全試合3セットマッチとする。

6. 使用球

(財)日本バレーボール協会検定18枚張り5号球カラーボールを使用する。

※ボールメーカーは実行委員会で決定する。

7. 組み合わせ

組み合わせは、監督・主将会議において抽選により決定する。なお、1次予選ではそのブロックに属する加盟団体チーム同士の対戦は行わない。また男女とも前回優勝・準優勝チームはシードする。

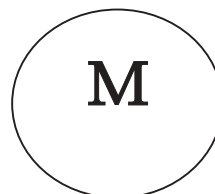
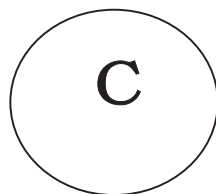
8. 開始式・表彰式

- ① 開始式は、大会1日目の試合開始前に行う。
- ② 表彰式は決勝戦終了後に行う。
- ③ 統一服装で参加すること。

9. 注意事項

- ① 試合開始前・セット間及び終了後の手順は別表プロトコールのとおりとする。
- ② 試合開始は、特に時間の指定のあるものを除き、追い込み方式で行う。なお、同チームの試合が連続する場合は15分間の休憩の後プロトコールに入る。
- ③ オーダー用紙は、キャプテンがトスをするとき提出する。
- ④ 公式練習からはエントリーされた者だけが競技場に入場できる。

- ⑤ 負傷の原因となるピン、指輪、腕輪、かぶりもの、その他金属装身具等を身につけて競技してはならないが、眼鏡は自分の責任において使用する。
- ⑥ 主将は、ジャージ色と異なった色の幅 2cm、長さ 8 cmのマークをユニフォームの胸部の番号の下に明確に付けること。
- ⑦ 監督・コーチ・マネージャーは下記のマークを左胸部に付けること。マークの大きさは直径6cm程度で各チームが準備すること。



10. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会

(別表) プロトコール (試合開始前・セット間及び終了後の手順)

6人制 (セット用)

(試合開始前)

試合前	チーム	主 審	副 審
	両審判員のネット等のチェック時はネットを使用せずにウォーム・アップすることができる。	両審判員は、ネットの高さ、張り具合、アンテナの位置及びサイド・バンドの位置をチェックする。	
11分前	キャプテンは、トスのために記録席へ行く。トスの後、記録用紙にサインする	主審は、記録席で副審を立ち会わせてトスを行う。副審は、両チームのキャプテン、監督を記録席に導き、記録用紙にサインをさせる。	
10分前	両チーム一緒か、または個別に (サービス権を得たチームから) 公式ウォーム・アップをする。	主審は、公式ウォーム・アップ開始を吹笛で合図する。そしてボール、スコア・シート、ブザー、ユニフォームなどゲームに必要な用具をチェックする。ラインズマン、ボール・リトリバー、モップと打合せを行う。副審は、公式ウォーム・アップの計時を行う。	
7分前	個別に公式ウォーム・アップを行っている場合は、交替する。	副審は各チームが個別に公式ウォーム・アップを行っている場合はその交替を吹笛で合図する。	
4分前	公式ウォーム・アップを終了し、各チームのメンバーは速やかにベンチに戻る。	主審は、公式ウォーム・アップの終了を吹笛で合図する。	
3分前	全プレーヤーは、エンド・ライン上に整列する。主審の吹笛と合図でネット付近で最初に両キャプテンが握手する。そして、チーム・メンバーが続いて握手する。その後各チームのメンバーはベンチに戻り、スターティング・プレーヤーは、ユニフォーム姿で待機する。	主審は両チームのプレーヤーをエンド・ライン上に導く。主・副審は審判台の前で、ネットをはさんで記録席側から見て左側に主審、右側に副審が位置する。両チームが整列したら、挨拶 (握手) をかわすように吹笛で合図する。審判役員はそれぞれの位置に着く。副審は、サービス・ゾーンの右側に位置しているボール・リトリバーにボールを1ずつ送る。	
1分 30秒前	主審の吹笛と合図で、スターティング・プレーヤーはベンチから直接コートに入る。	主審は吹笛で合図をして、プレーヤーをコート内へ導く。副審および記録員はそれぞれスターティング・ライン・アップを照合する。その後副審は、ボールを最初のサーバーに送る。	

0分前	最初のサーバーはサービス許可の吹笛によりサービスを行う。主審はサービス許可の吹笛をする。	
-----	--	--

(セット間)

	チーム	主 審 副 審
セット終了後	セットが終了したら、コート上のプレーヤーはエンド・ライン上に整列する。プレーヤーは、主審の吹笛の合図で、右側のサイド・ラインに沿って進み、支柱の外側を通過したら直接それぞれのベンチに戻る。	主審は、プレーヤーがエンド・ライン上に整列したら、コートを交替するよう吹笛とシグナルで合図する。
2分 30秒前	プレーヤーは、副審の合図により、ベンチから直接コートに入る。	副審は、記録員の合図を受けて両チームにコートに入るよう吹笛で合図する。その後、直ちにスターティング・ライン・アップを照合する。

(第3セットのコートチェンジ)

	チーム	主 審 副 審
いずれかのチームが13点目を先取した時	主審の吹笛とシグナルの合図で、コート上のプレーヤーはそのままの位置から向かって右の支柱の外側をまわり、コートを交替する。	主審は13点目の吹笛後、両チームにコートを交替するよう、吹笛とシグナルで合図する。

(試合終了後)

	チーム	主 審 副 審
速やかに	試合が終了したら、コート上のプレーヤーはエンド・ライン上に整列し、主審の吹笛でネットに近づき相手チームと挨拶（握手）を交わす。キャプテンは、主審と副審に感謝の握手をする。そして、記録用紙にサインする。チームは直ちにベンチから退出する。	主審は、コート上のプレーヤーをエンド・ライン上に整列させる。主審は審判台を降り、副審が審判台右側の定位置に着いたら吹笛と合図で両チームに挨拶（握手）をさせる。そして両チームのキャプテンを伴って記録席に行き、記録用紙にサインをさせ、その後、記録員の記録用紙への記入を完了させる。

(注) 個々の大会において必要と認めた場合は、プロトコールの下記の点を変更してもよい。

1. ボール1個による試合の場合は、ボール・リトリバーに関するプロトコールを省略する。
2. ボール1個による試合の場合は、副審は、セット間の中断、コートの変替、およびタイム・アウトの時にボールを保管し、試合再開時にサーバーに渡す。

4. 第 36 回陸上競技実施要項

1. 競技

陸上競技とする。

2. 競技規則

大会開催年度の(財)日本陸上競技連盟規則及び本大会申し合わせ事項によるものとする。

3. 種目

一部と二部(壮年の部)に区別する。種目は一部も二部も共通。

① 男子の部(16種目)

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、110m ハードル、4×100m リレー、4×400m リレー、走高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投(7.26kg)、やり投(800g)、円盤投(2kg)

② 女子の部(10種目)

100m、200m、400m、1500m、5000m、4×100m リレー、走高跳、走幅跳、砲丸投(4kg)、やり投(600g)

4. 出場資格

① 男女とも、一部は 39 歳以下、二部は 40 歳以上とする。但し、40 歳以上でも一部に出場することができる。

② 1 人あたりの出場種目はリレーを除いて 3 種目以内とする。

5. 競技方法

(1)個人及び団体対抗(男女別総合で一部のみ)とする。

(2)団体対抗の得点は、1 位 6 点、2 位 5 点、3 位 4 点、4 位 3 点、5 位 2 点、6 位 1 点とする。

6. 表彰

① 表彰式は種目ごとにレース終了後行うので、第 3 位までの入賞者は、レース後すぐ本部表彰控所へ集合すること。

② 優秀な記録を出した選手には、最優秀選手としてトロフィー又は盾を授与する。

7. 参加申込み

出場する場合、陸上個票に1種目毎に氏名・加盟団体名・自己の最近記録を明記し、参加申込書(大会指定の用紙による)に添えて申し込む。

8. 注意事項

① 競技場への立ち入り

競技場へは、競技役員、補助員、出場中の選手、実行委員、手話通訳者及び許可を得た報道関係者以外は立ち入ることができない。

② 更衣室について

貴重品・衣類の盗難防止のため、更衣室では衣類を着替えるだけとし、衣類、バック等を置かないこと。衣類などは各加盟団体において保管する。

③ 練習について

競技役員の指示に従って行う。

④ 招集について

- 1) 招集場所は、トラックの第4コーナー付近に設置する。
- 2) 招集の開始及び完了の時刻は下図のとおりとする。

競技の種目	招集開始時間	招集完了時刻
トラック競技	競技開始時刻 30 分前	競技開始時刻 20 分前
フィールド競技	競技開始時刻 40 分前	競技開始時刻 30 分前

- 3) 招集の点呼を済ませた人は、招集所で待機しなければならない。代人による点呼は認めない。
- 4) 招集完了時刻に遅れた選手及び招集完了時に招集場所にいない選手は、棄権したものとみなす。
- 5) 招集場所から競技場へ移動、または競技場から退場するとき、係員が案内するので、係員の指示に従う。
- 6) 3種目同時に出場する人は、その旨本人(代人でも可)が招集終了時まで申し出る。
- 7) リレー出場チームは、招集1時間前までにオーダー用紙を競技者係に提出する。

⑤ 入場

競技者係にナンバーカードの確認を受けた後、係員の誘導で競技場に入る。

⑥ 走路順及び試技順

トラック競技の走路順及びフィールド競技の試技順は、プログラム記載の順序とする。予選をしたトラック競技の決勝の走路順は主催者が公正に抽選し、その結果は予選終了後、招集所に掲示する。

⑦ バーの上げ方

走高跳のバーの上げ方は次のとおりである。

回数		練習	1	2	3	4	5	6	7・8・9
高さ	男子一部	1.40	1.50	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	これ以上は3cmずつ
	女子	1.10	1.15	1.20	1.25	1.30	1.35	1.40	これ以上は3cmずつ
	男子二部								

※注意：1位決定の際のバーの上げ下げは、男女とも2cmとする。

⑧ 用具

- 1) 砲丸投の砲丸は、男子は7.26kg、女子は4kgの鉄又は砲金を使用する。
- 2) 円盤投は、男子2kgを使用する。
- 3) やり投の槍は、男子は800g、女子は600gを使用する。
- 4) 靴は日本陸上競技連盟規則に定められた規格のものを使用すること。なお、スパイクシューズを使用する場合は、全天候型の針を使用し、トラックは9mm以下、走高跳及び槍投については12mm以下とする。

⑨ 競技服装

- 1) 競技を行うときは競技服装(ランニングシャツ等)を着用する。
- 2) ナンバーカードは、実行委員会が交付したものを使用し、競技服装の上衣の胸部及び背部に安全ピンで留める。ただし、走高跳に出場する者は、胸部又は背部のいずれか一方でよい。
- 3) トレーニング中又は競技中に、一般に認められた団体の名称以外の広告を付けたものを競技場内に持込むことは、日本陸上競技連盟競技規則に抵触するので厳に慎む。

9. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会